

## 定例研究会要旨

「移動表現の日独比較 —移動動詞と経路を表す前置詞句との共起関係を中心に—」

高橋美穂(東京外国語大学大学院総合国際学研究院特別研究員 / ドイツ語学)

日時:平成28(2016)年6月1日 16:00~18:00

会場:東京外国語大学 語学研究所

本発表では、類型論的に異なるタイプに属するとされる日独語の移動表現を、とりわけ移動動詞と経路表現との結びつきという観点から分析するための基礎的なデータを示し、比較・対照分析のための枠組みを示すことを目指した。本発表の構成は次のとおりである。まず、本発表の目的・分析対象を述べたあと(1)、移動表現・移動動詞のタイポロジーを取り上げた(2)。続いてドイツ語の移動動詞を例に、移動の経路を表す前置詞句によってもたらされる、移動事象のアスペクト的・相的な変化に言及した(3)。さらに、起点・着点・中間経路などの具体的な経路を表す前置詞句が、ドイツ語の移動動詞が用いられる特定の構文において、構文の可否や解釈と密接に関連することを示した(4)。そのうえで、日本語における移動動詞と経路表現の組み合わせを、とくに移動事象のアスペクト的・相的变化に着目し、確認した(5)。以上を受けて、最後に、日独語では移動事象の相的变化がそれぞれ異なる形式で言語化されることを指摘した(6)。

移動事象のアスペクト的解釈の変化は、移動経路の有界性と相関している。ドイツの *laufen* (走る) や *schwimmen* (泳ぐ) のような移動様態を表す動詞は、元来段階的な位置変化を表す「過程」タイプのものであるが、これらの移動様態動詞は、有界的な経路を示す起点や着点を表す前置詞句を伴うことで、相反する位置づけの状態から構成される「状態変化」タイプへと変わる。ドイツ語では、このような経路を表す前置詞句の有無が、移動動詞が出現する構文の可否や構文全体の解釈に関わることがあり、その一例が自由与格を伴う構文(自由与格構文)である。高橋(2015)におけるコーパスを使用した事例の調査・分析の結果、移動動詞が出現する与格構文では、(i) 起点・着点・中間経路などの具体的な経路を表す前置詞句が必須であり、アスペクト的に区切られた移動事象が表される必要があること、(ii) さらにそれらの経路を表す前置詞句を手がかりとして「与格の人のもとへ」という求心的移動あるいは「与格の人から離れて」という遠心的移動のいずれかが表され得ること、(iii) そのような移動の直示性と構文全体の解釈(「影響」か「非意図的使役」か)が相関していること、が明らかとなった(自由与格構文の異なる2つの解釈については、McIntyre(2006), Schäfer(2008)など参照)。このように Talmy(1991, 2000)によるところの「付随要素枠付け言語」タイプであるドイツ語では、具体的な移動経路は前置詞句によって表され、しかも、それらが文で表される移動事象のアスペクト・直示性に密接に関わる。その一方で、「動詞枠付け言語」タイプの日本語では、移動経路は動詞に語彙化される傾向があるとされる(宮島(1984)、松本(1997)など)。「入る」「出る」「着く」などの移動動詞では特定の経路(「入る」「着く」では着点、「出る」では起点)が語彙化されており、これらの動詞によって表される移動は時間的・アスペクト的に区切られたものとなる。日本語においても「走る」「歩く」「はう」などの移動様態を表す動詞が存在するものの、これらの動詞で表されるのは時間的・アスペクト的に区切られない移動であり、しかも、これらの動詞と移動経路を表す格助詞との共起には一定の制限が認められる。

本発表の結論は次のとおりにまとめられる。(i) ドイツ語の経路を表す前置詞句は、移動様態動詞と結びつくことで、移動の事象タイプを「過程」から「状態変化」へと変える役割を担う。同様の働きを持つのは、日本語では「入る」「出る」「着く」のような経路を語彙化した移動動詞である。これらの

移動動詞は、相反する下位事象から構成される変化を表すものとして分析される（例えば「部屋に入る」の場合、「部屋にいない」という状態から「部屋にいる」という状態への変化）。(ii) 日本語の移動経路を表す「に」格や「を」格は、(ドイツ語の経路を表す前置詞句と異なり) 移動事象の相的变化には関与しない。これらの助詞は、動詞の語彙意味に内在する経路の概念をそれぞれに表出する働きを持つ（「に」は着点、「を」は起点または中間経路）。そのため、「走る」「泳ぐ」などの「過程」タイプの移動様態動詞が、例えば着点を表す「に」格と結びつくためには、該当する経路の概念（着点）を語彙化した「着く」「行く」のような動詞表現と組み合わせられなければならない。

#### 参考文献

- McIntyre, Andrew (2006): The interpretation of German datives and English *have*. In: Daniel Hole, André Meinunger and Werner Abraham. (eds.) *Datives and Other Cases: Between Argument Structure and Event Structure*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, pp.185–212.
- 宮島達夫 (1984): 「日本語とヨーロッパ語の移動動詞」国語学会編『金田一春彦博士古希記念論文集 第2巻 言語学編』三省堂, pp. 456–486.
- 松本曜 (1997): 「空間移動の言語表現とその拡張」田中茂範・松本曜『空間と移動の表現』研究社出版, pp. 126–229.
- Schäfer, Florian (2008): *The Syntax of (Anti-)Causatives: External Arguments in Change-of-State Contexts*. Amsterdam: John Benjamins.
- 高橋美穂 (2015): 「事象の「所有」に基づく lassen および自由与格による項の拡張—ドイツ語の移動動詞を例に—」博士論文 (東京外国語大学).
- Talmy, Leonard (1991): Path to realization: A typology of event conflation. In: *Proceedings of the Seventeenth Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*. Berkeley: University of California, pp.480-519.
- Talmy, Leonard (2000): *Toward a Cognitive Semantics, vol. 2, Typology and Process in Concept Structuring*. Cambridge, Mass.: MIT Press.

## 定例研究会要旨

### 「対格表現の地域差 —助詞ゼロをめぐる—」

木部暢子 (国立国語研究所時空間変異研究系教授, 東京外国語大学大学院国際日本学  
研究院教授(クロスアポイントメント)/ 方言学)

日時: 平成 28 (2016) 年 7 月 6 日 18:00~20:00

会場: 東京外国語大学 語学研究所

#### 1 概要

日本語標準語では、主格標識に「が」を、対格標識に「を」を使用する。しかし、話し言葉では助詞ゼロ(無助詞)で主格、対格を表すことがある(太郎 本 読んでよ)。日本語諸方言を見渡すと、主格、対格の標示のしかたに地域差がある。発表では、現在、国立国語研修所で作成中の「日本語諸方言コーパス」を利用して各地の対格標示形式の地域差について述べた。

#### 2. 「日本語諸方言コーパス」とは

「各地方言収集緊急調査」(1977~1985年に文化庁が行った方言談話調査)の音声データを使用し、検索ができるようにしたもの。本発表では、地域差を見るために青森県弘前市、東京都台東区、石川県羽咋郡押水町、大阪市、広島市、北九州市、鹿児島県穎娃町の7地点のデータを使用した。

#### 3. 「日本語諸方言コーパス(試作版)」による対格助詞の地域差

方言コーパスにより各地の対格の格標示形式の地域差を示すと、以下のとおりである。

対格標示形式の地域差 (出現回数(%))

地域	助詞なし	助詞あり	合計	備考
弘前	102(94.4%)	ゴト 6(5.6%)	108(100%)	
東京	35(43.2%)	オ 46(56.8%)	81(100%)	保留7
羽咋	55(64.7%)	オ 30(35.3%)	85(100%)	
大阪	57(62.0%)	オ 35(38.0%)	92(100%)	
広島	14(8.2%)	オ 156(91.8%)	170(100%)	保留7
北九州	21(61.8%)	オ 13(38.2%)	34(100%)	
鹿児島	5(5.7%)	オ 82(94.3%)	87(100%)	

対格助詞ゼロの出現度は、高い順から以下のようにになっている。

弘前 > 石川県羽咋・大阪・北九州 > 東京 > 広島 > 鹿児島

ここから次のような問題が提起される。

- ・弘前は助詞ゼロが基本だが、どのようなときに助詞「ゴト」が使われるのか。
- ・広島と鹿児島は助詞「オ」が基本だが、どのようなときに助詞ゼロが使われるのか。
- ・東京、羽咋、大阪市、北九州で助詞「オ」が使われる条件はどのようなものか。

#### 4. 弘前市方言の対格標示

弘前市方言では、主格、対格が助詞ゼロで標示されるのが基本である。語順はS-O-Vで、OとVは隣接している。対格名詞句が指示詞(ソレ、アレ)の場合は、すべて助詞「ゴト」が使われている。この

ことから、「ゴト」の使用には名詞句の定性が関係していると考えられる。また、「対格名詞+ゴト」は文頭に現れることがある。その場合はVに隣接しない。

助詞ゼロと「ゴト」の比較 (出現回数)

地点	文構造	助詞ゼロ (総数 102)	「ゴト」 (総数 6)
弘前	対格 NP+V	91	2
弘前	対格 NP+格要素+V	1	3
弘前	指示詞+V	0	4

### 5. 北九州市方言の対格標示

主格は「が」で、対格は助詞ゼロまたは「オ」で標示される。語順はS-O-Vである。助詞ゼロの場合も「オ」の場合もOとVは隣接している。助詞「オ」が現れやすいのは、対格名詞句が修飾要素を含むときである。このことから、助詞「オ」の使用は、取り立てと関係しているのではないと思われる。

対格名詞句と動詞との距離、名詞句の (出現回数)

地点	文構造	助詞ゼロ (総数 21)	「オ」 (総数 13)
北九州	対格 NP+V	21	11
北九州	対格 NP+格要素+V	0	0
北九州	指示詞	2	1
北九州	NP[ $\emptyset$ +N]	18	6
北九州	NP[修飾要素+N]	3	7

### 6. 鹿児島県頰娃町方言の対格標示

主格は「ガ」で、対格は「オ」で標示されるのが基本である。助詞「オ」は名詞語末母音と融合することが多いので、「オ」かゼロかの判定には注意が必要である。例えば、以下の例の「ハナス(話しを)」は、「ハナシオ」に当たる。

257-000 C ガッチュー ハナス キケバ モー ナンダチャイガ  
よく 話を 聞けば もう 涙だが

以下の「アイ」(あれを)、「オイ」(私を)の例も融合を起こしている可能性があり、無助詞の出現条件については、今後の課題としたい。

138-000 C マン ナツダゲ チュッサー アイ セダバツ  
まあ なるだけ と言って あれ [を] したけど

157-000 B X24 ダ ワガエデー アイ シヨッタバツ  
X24 たちは 自宅で あれ [を] していたが

442-000 B X47 カ° オイ チカマユンナ チュバツ チカマエツソラ  
X47 が 私 [を] 捕まえるな と言うけれど 捕まえてね

### 付記

この研究は、平成25~27年度科研費基盤(B)一般25284087、平成28年度 科研費基盤(A)一般16H01933による研究成果の一部である。

## 定例研究会要旨

### 「訳せる日本語、機械が訳せる日本語」

佐野 洋（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 / 言語情報処理論, 電子化言語データベース, コンピュータ支援の語学教育）

日時：平成28（2016）年9月14日 16:00～18:00

会場：東京外国語大学 語学研究所

この2年余りにわたる横井先生（東京工科大学名誉教授）が主催する研究会1（「日本語マニュアルの会」）の活動成果の報告を行った。

この会で提唱する日本語文章論は、思考内容を段階を経て記述に変換するというプロセスモデルを持つことを特徴としている。つまり、文章産出（マニュアルライティング）の作業の前提として「思考のシンボライズ（言語化）とその表出には段階がある」と考えるのである。以下にまとめる。

- 表出段階  
試みる日本語、表わす日本語、伝える日本語、訳せる日本語
- 方向性  
一方向性（不可逆的プロセス）
- 関係性  
訳せる日本語は、ターゲット言語によって（表現が）違う  
訳せる日本語は、「機械が訳せる日本語」を含む  
上記の表出段階についての概要は以下のとおりである。
- 試みる日本語  
思考のツールとして、試行錯誤を柔軟に支えるための日本語
- 表わす日本語  
思考を精密化し、記載要件を満たし、情報を適切に表現するための日本語
- 伝える日本語  
読み手が効率よく間違いなく読み取れるように、情報を的確に伝達するための日本語
- 訳せる日本語  
多言語翻訳の中継（中間）言語となり、外国語へ直訳できるようにするための日本語  
本発表では、上記の「訳せる日本語」段階の成果内容を説明した。日本語マニュアルをターゲットとして、その目的（産業日本語の活動の目的）は、以下ある。
- 正確かつ円滑な情報発信力の強化
- 知的生産性の向上（と知識資源の蓄積と活用）
- 翻訳における品質と効率と向上  
発表内容の具体的内容は、「伝える日本語」表現を「訳せる日本語」表現に書き換える規則の集合についての紹介である。書き換えられた「訳せる日本語」は、以下の特徴を有する日本語文章表現になる（ことを目指している）。
- 多言語翻訳へ対応できる

---

1 <http://ngc2068.tufs.ac.jp/nihongo/htdocs/>

翻訳原稿が多言語翻訳に対応できれば、その価値を確実に主張できる。翻訳原稿を作るというステップを設けることが、十分にコスト的に見合う。

- 翻訳会社の実業務へ対応できる  
分業体制の運用を円滑にし、翻訳発注側と翻訳会社とのコミュニケーションを円滑にする
- 機械翻訳活用へ対応できる  
前編集作業と後編集作業を設け、現状の機械翻訳システムを有効に利用できる。  
書き換えの詳細な内容については、参考資料2を参照のこと。いずれもウェブ参照が可能である。

#### 参考資料

- ☑ 「伝える日本語」から「訳せる日本語」へと言い換えるー『日本人のための日本語マニュアル（暫定第1版）』ー, JAPIO Year Book 2016（2017年初頭に JAPIO の HP に掲載予定）
- ☑ 「日本人のための日本語マニュアル（試作版）」,パンフレット（2016年2月24日）  
[http://ngc2068.tufs.ac.jp/nihongo/htdocs/?page\\_id=53](http://ngc2068.tufs.ac.jp/nihongo/htdocs/?page_id=53)
- ☑ 「日本人のための日本語マニュアル」, JAPIO Year Book 2015  
<http://www.japio.or.jp/00yearbook/yearbook2015.html>
- ☑ 「日本人のための日本語マニュアル」, JAPIO Year Book 2014  
<http://www.japio.or.jp/00yearbook/yearbook2014.html>

---

2 Japio YEAR BOOK 2016（2017年始めには掲載予定）<http://www.japio.or.jp/00yearbook/>を参照。

## 定例研究会要旨

### 「社会は敬語をどう獲得するか? -マクロ社会言語学的考察-

柳村 裕 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院特別研究員 / 社会言語学, 音声学)

日時:平成28(2016)年10月5日 18:00~20:00

会場:東京外国語大学 語学研究所

本研究では、マクロ社会言語学的接近法によって、日本語の敬語の習得・変化過程の記述と理論的考察を行った。国立国語研究所の大規模経年発話資料をもたらし「岡崎敬語調査」(国立国語研究所1957、1983、2010)の資料を再分析し、話者の個人内での敬語使用における「加齢変化」のパターンを記述した。また、話者の「職業」という新たな分析指標を加えることでこれまでの研究を発展させ、敬語使用と話者の社会的属性との関係を分析した。その結果、敬語の習得・変化パターンに、話者の職業によって異なる二つのタイプがあることを示した。そして以上の観察結果を基に、日本語の敬語の習得・使用・変化が、話者の社会的属性とどのように関わるかを捉えるための仮説を提案した。

岡崎敬語調査資料のうち本研究で分析対象とするのは、11種類の設定場面における短文発話回答データと、発話者の生年、性別、学歴、職業などの社会属性項目である。3回の調査(第一次:1953年、第二次:1972年、第三次:2008年)のそれぞれに約400名、合計約1,200名の話者のデータが含まれる。まず、発話回答に現れる各種敬語形式の使用数を集計した。集計対象は「デス」「マス」「ゴザイマス」「イタダク」「イラッシャル」等の各種敬語形式である。次に、発話中の敬語形式をもとに、各発話文について「丁寧さの段階付け」(国立国語研究所1957、1983)を行った。これは、主に発話末の表現に基づき、各発話の丁寧さを3段階に分類したものであり、最も丁寧なものから順にゴザイマス体、デスマス体、ダ体に概ね相当する。各段階に点数を与え(ゴザイマス体が3点、デスマス体が2点、ダ体が1点)、これを敬語使用特徴の指標として、話者の個人内での敬語使用の変化およびその話者属性差を分析した。

敬語使用の変化の分析は、「見かけ時間 apparent time」および「実時間 real time」で分析により行った。丁寧さの段階点が話者の(調査時点での)年齢によってどう異なるかを見ることで、敬語使用の「見かけ時間上の変化」を観察・記述した。また、特定の年代生まれの話者について第一次~三次および追加調査の結果を比較することで、丁寧さの段階点の「実時間上の変化」を直接的に観察した。そして、以上2種の分析を話者の職業ごとに行うことで、話者の個人内での敬語使用の変化が職業によってどう異なるかを分析した。

結果の概要は以下の通り。まず、職業等の話者属性を考慮せずにサンプル全体で見ると、敬語の「成人後採用」(井上他2016、柳村2014)が観察された。見かけ時間と実時間の両方において、話者の年齢が高くなるほど丁寧さの段階点が高くなることが観察された。加齢に伴い敬語の使用量が増え、また、より丁寧な形式を使うという、話者の生涯における言語使用の特徴の変化と解釈できる。

一方で敬語使用の変化パターンの職業差も観察された。すなわち上述の丁寧さの成人後採用が観察されたのは一部の職業の話者のみであり、別の職業の話者には成人後採用が観察されなかった。具体的には、職務の中での敬語使用の違いによって職業を「事務類」「接客類」「労務類」の三つに分類すると、このうち丁寧さの成人後採用が観察されたのは接客類のみであった(柳村2017)。事務類と労務類は、敬語使用の加齢変化が少なく、早い(若い)時期に身につけた敬語がほぼ生涯を通して使用されると解釈できた。

以上の観察結果より、敬語の習得・使用・変化のパターンと話者属性の関係を捉えるための仮説を提案した。すなわち、敬語の習得には二つのパターンがあり、そのどちらに当てはまるかは話者の属性によって異なるという仮説である。二つのパターンとは、一つは成人後採用であり、もう一つは敬語がより早い時期に習得され、個人内での言語形成期以降の変化が見られないパターンである。今後の研究では、岡崎敬語調査資料の再分析および新たに収集する調査資料の分析を行い、この仮説の構築・検証を計画している。すなわち、どのような話者属性（職業以外も含む）においてどちらの敬語習得・変化パターンが観察されるか、また、これまでに見られていない新たな習得・変化パターンが見られるかを検討し、敬語使用と話者属性の関係を総合的に分析する。

## 参考文献

- 井上史雄・阿部貴人・鎌水兼貴・柳村裕・丁美貞（2016）『敬語表現の成人後採用—岡崎における半世紀の変化—』国立国語研究所「日本語の大規模経年調査に関する総合的研究」報告書
- 国立国語研究所（1957）『敬語と敬語意識』東京：秀英出版。
- 国立国語研究所（1983）『敬語と敬語意識—岡崎における20年前との比較—』東京：三省堂。
- 国立国語研究所（2010）『敬語と敬語意識—愛知県岡崎市における第三次調査—』科学研究費補助金研究成果報告書，第1～4分冊。
- 柳村裕（2014）「ことばの丁寧さの経年変化と社会的要因—岡崎敬語調査から—」『国立国語研究所論集』8: 177-196.
- 柳村裕（2017）「話者の職業による敬語使用の差異と変化—岡崎敬語調査資料の分析—」『国立国語研究所論集』採択決定，第12号掲載予定，掲載頁未定。

## 定例研究会要旨

### 「語研特集「情報構造」に関する報告と今後の調査の展望」

風間伸次郎（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 / 記述言語学・ツングース諸語）

日時：平成29（2017）年1月25日 18:30～20:30

会場：東京外国語大学 語学研究所

次の号（本号）の語研論集の特集のアンケートに用いる例文を吟味し、アドバイスをいただくために発表を行った。具体的には Li and Thompson (1976) や Haspelmath (1997) などの先行研究を取り上げ、その要旨を紹介するとともに、それらの諸先行研究の要点を基にアンケートの例文を作成し、それらの妥当性について議論を行った。前号の調査で分かったことについてもその結果に対する考察を紹介し、議論を行った。

さらなる詳細に関しては、今号の特集および特にその「まえがき」を参照されたい。



## 定例研究会要旨

### 「エジプトアラビア語の疑問詞位置と語順類型」

長渡陽一(東京外国語大学大学院総合国際学研究院特別研究員 / アラビア語, 朝鮮語)

日時:平成29(2017)年3月1日 17:30~19:30

会場:東京外国語大学 語学研究所

アラビア語エジプト方言の疑問詞位置は平叙文の元位置にとどまる(Ernest et. al 1979: 222; 西尾2009:1; Versteegh 2014: 218)。また疑問詞を文頭に置くこともあり、これについては「強調」と説明されている。ところが、*e: da?* (何、これ)「これは何か?」のように、疑問詞を文頭に置くのがふつうのものも少なくない。そこで、実際に疑問詞の位置を、会話コーパスの中で調査した。

#### 1. 疑問詞位置の調査方法

調査は、エジプト映画『テロリズムとケバブ』(1992年)、『ハッサンとマルコス』(2008年)のシナリオ2編から疑問文を抽出し、構文によって分類した。

#### 2. エジプト方言の疑問詞位置

**動詞文** 動詞がある文で、「主語 + 動詞 + 目的語 + その他」の語順である。疑問詞目的語は72例中72例が、疑問詞副詞は59例中55例が元位置であった。

- (1) *enta ɔlt e: bi-z-zabt?* 「君は正確には何を(目的語)言ったか?」  
君 言った 何 正確に
- (2) *ge:t hina le:?* 「なぜ(副詞)来たのか?」  
来た ここ なぜ

**存在文** 存在詞 *fi*:「ある」を用いた、*there is* に相当する文で、疑問詞主語は、28例中28例が元位置であった。

- (3) *fi: e:?* 「何があるか?(どうした?)」  
ある 何

**コピュラ文** 「主語 + 補語」の語順で、現在時制ではコピュラは使われない。46例のうち、疑問詞が元位置のものが15例、文頭のものが31例あった。

- (4) *dija.nt-ak e:?* 「君の宗教は何か?」  
宗教 -君の 何
- (5) *e: d-dawfa di?* 「この騒ぎは何か?」  
何 (定)騒ぎ この

**擬似分裂文** 「疑問詞 + [節定冠詞 *illi* を冠した句]」であり、コピュラ文と同じ構造である。21例中、疑問詞が目的語の例は2例、主語の例は19例あった。

- (6) *e: illi enta btešmel da?* 「その君がしていることは何か?」  
何 (定) 君 している その

**動詞文の主語** 動詞文のうち疑問詞主語が人のものは8例中8例が元位置であった。疑問詞主語が物のものは6例中6例で疑問詞が後方移動していた。存現表現であるためと思われる。(言語学会での風

間氏コメントより)

(7) *mi:n fatan salaj-ja?* 「誰が私のことを告げ口したか？」  
誰 告げ口した について-私

(8) *ha-jihʃal e:?* 「何が起きるか？」  
(未)起きる 何

### 3. まとめ

動詞文(存現表現を除く)、存在文での疑問詞は元位置であった。コピュラ文は、疑問詞が文頭のものと同位置のものがあった。擬似分裂文はコピュラ文である。構文によって疑問詞位置が異なることは、情報構造と関係があることが考えられる。

また同じく SVO 語順のインドネシア語・マレー語も、疑問詞位置がエジプト方言と同じ様相を呈する。ところが、同じ SVO 語順であっても、中国語やタイ語は、コピュラ文においても元位置である。これは、コピュラ文にコピュラを使うかどうかと関係があるかも知れない。

### 引用文献

Ernest T. Abdel-Massih, Zaki N. Abdel-Malek, El-Said M. Badawi (2009). A Reference Grammar of Egyptian Arabic, Georgetown U.P.

西尾哲夫 (2009) 「エジプト・アラビア語の Wh 疑問文の語順と語順変化—コプト語影響説の再検討—」『国立民族学博物館研究報告』34(1).

Versteegh, Kees (2014). The Arabic Language 2nd ed. Edinburgh U.P. (『アラビア語の世界—歴史と現在』長渡陽一訳, 2015 年, 三省堂)